



75歳の現役ランナー 池田五郎さん（黒井田町）



マラソン大会優勝94回

夕方6時頃、市道和田南線で毎日、男性ランナーがもくもくと走る光景が見られます。男性は黒井田町の池田五郎さん。山陰でランニングを趣味にする人の中ではよく知られている75歳の現役ランナーです。

池田さんはなかうみマラソン全国大会、一畑薬師マラソン大会などの大きなレースか

ら地域の大会まで多くのレースの優勝者に名を刻んでいます。優勝回数は、駅伝やリレーなども合わせると94回。大会出場数207回でこの数字は驚異的です。

走る時は一年中、短パン、Tシャツ、汗止めのヘッドバンドがトレードマーク。年齢を感じさせないスピーディーで豪快なフォームです。

何歳になっても挑戦

池田さんが走り始めたのは38歳と決して早いほうではありません。当時、大山高原マラソン大会（大山町）5キロに会社の友人とともに出場。200人程の参加者の中で最後から数番目と散々な結果に。「くやしくてくやしくてそれから練習を始めました」大会後、毎日8〜12キロ程走るように。走る距離はその日の調子によって決めます。雨の日は近くのトンネルの歩道を何度も往復。元来の真面目な性格もあり、40・50代と年を重ねるごとに記録を伸ばし、大会でも5キロをメインに多くの栄光を手にしてきまし



▲獲得した賞状やトロフィー。並んでいるのはほんの一部です。

た。走り始めて気づけば37年。「走らない日は調子が悪く感じます」とマラソンはすっかり生活の一部になっていきます。マラソンのおかげで健康も維持。「カゼも引かなくなつたし、内臓も強くなった」と効果を実感しています。

70代になり以前ほどの記録は出なくなりりましたが、常に目標を持ち大会へ出場しています。11月5日のなかうみマラソンではハーフに初挑戦。地元の皆さんの応援を受けて、2時間17分で見事完走しました。

「いつまで走れるかわかりませんが、限界まで走りたい」。池田さんの果てない挑戦は続きます。

編集後記

▼山々が紅葉で染まり、今年も「冬の使者」コハクチョウたちが市内各地で見られるようになりました。純白の体を悠々と休めています。彼らが越冬をする湖や沼地、湿地は、餌や栄養たつぶりの土壌で自然が豊かな証拠です。この素晴らしい環境に感謝し、今年も楽しませてもらいましょー！（山）

▼なかうみマラソンではランナーの様子を上空から初めて撮影。画像を見ると地上から撮影した構図にはない光景が見えてきます。選手の向こうに広がる安来港や中海、弓浜半島など、海辺を走る素晴らしい口ケーションの大会なのだと思えて感じました。選手皆さん、我がまちの自慢のコースです。（S）

安来市の人口と世帯数 H29.10.31現在

人口合計 / 39,494人
(男:18,910人 女:20,584人)
世帯数 / 14,267世帯

- 資源保護のため、この広報紙は再生紙を使用しています。
- 広報紙にあなたの写真が載りましたら、差し上げますのでご連絡ください。
- 自治会宛の発送等につきましては、地域振興課（☎23-3067）までご連絡ください。



古紙パルプ配合率70%再生紙を使用